GCS｜この反応は、何点？

各領域で確認できた最良の反応を一つ選び、E・V・Mを別々に記録します。

氏名・ID：_____　日時：_____　評価者：_____

E｜開眼反応　1〜4点

4点	E4	刺激する前から、自然に目が開いている。
3点	E3	会話・呼びかけ・大声で目を開く。
2点	E2	指先への圧迫刺激で目を開く。
1点	E1	開眼しない。評価を妨げる要因はない。

V｜言語反応　1〜5点

5点	V5	名前・場所・日付を正しく答えられる。
4点	V4	会話は成立するが、見当識が不正確。
3点	V3	聞き取れる単語は出るが、会話にならない。
2点	V2	うめき・唸りなど、言葉にならない声のみ。
1点	V1	音声反応がない。評価を妨げる要因はない。

M｜最良の運動反応　1〜6点

6点	M6	2段階の指示に従う（例：握って、開く）。
5点	M5	頭頸部の刺激へ、手を鎖骨より上に持っていく。
4点	M4	肘を素早く曲げる。異常屈曲の特徴が主体でない。
3点	M3	肘を曲げるが、異常屈曲の特徴が主体。
2点	M2	刺激に対して、肘を伸ばす。
1点	M1	四肢の動きがない。評価を妨げる要因はない。

NT＝評価不能：眼瞼腫脹・挿管・筋弛緩などで判定できない領域に、理由とともに記録。NTは1点ではなく、NTを含む総点は出しません。

E：____　V：____　M：____　合計：____／15　NTの理由：_____

公式日本語・英語版に基づく日本語要約。詳細・手技は原資料をご確認ください。
日本語版 ／ English ／ GCS © University of Glasgow・GCS Aid © Sir Graham Teasdale

JCS｜反応から区分を選ぶ

JCSは点数の足し算ではなく分類です。刺激前・刺激中・刺激をやめた後を確認します。

氏名・ID：_____　日時：_____　評価者：_____

清明	0
0	覚醒しており、意識は明瞭。

Ⅰ｜刺激なしで覚醒	1・2・3
1	ほぼ清明だが、普段の明瞭さに欠ける。
2	時・場所などの見当識が障害されている。
3	自分の名前や生年月日を答えられない。

Ⅱ｜刺激で覚醒し、やめると眠る	10・20・30
10	通常の声かけで容易に目を開く。
20	大声、または身体を揺さぶる刺激で目を開く。
30	痛み刺激と繰り返す声かけで、かろうじて目を開く。

Ⅲ｜刺激しても覚醒しない	100・200・300
100	痛み刺激を払いのけようとする。
200	痛み刺激でわずかな四肢の動き・顔のしかめがある。
300	痛み刺激への反応を認めない。

発語や開眼の有無だけで決めず、失語・難聴・鎮静などを併記。JCS 20の「揺さぶる」は、外傷・頸椎損傷が疑われる方に行う指示ではありません。

今回のJCS：_____　実際の反応／刺激後の覚醒の持続

急な反応低下では、採点を終える前に応援・医療対応を優先します。
原資料：日本神経学会「神経学的検査チャート作成の手引き」
STROKE LABによる要約・再配置。詳細は原資料をご確認ください。

経過記録｜反応の違いまで伝える

総点だけでなく、時刻・実際の反応・左右差・妨害因子を残します。

氏名・ID：_____　日付：_____　評価者：_____

普段の反応／元の失語・麻痺・聴力／最後に普段どおりだった時刻

評価条件／挿管、薬剤・投与時刻、補聴器、疼痛、その他の妨害因子

時刻	JCS	E	V	M	合計※	実際の反応・左右差・NTの理由

※E・V・Mがすべて評価可能な場合のみ合計。JCSかGCSの一方だけ使った場合、他方は空欄。

対応と申し送り／活動中止・連絡の時刻、報告先、指示内容

迷いやすいM反応｜動く方向と速さを確認　M5・M4・M3

M5：手が頭頸部の刺激の場所へ向かう局在反応。
M4：肘が素早く曲がり、腕が体幹から離れるなどの正常屈曲。
M3：ゆっくりした定型的な屈曲、胸の前へ寄る腕、前腕の回旋などが主体。
身体刺激は訓練された医療職が施設手順で実施。胸骨を拳でこする刺激は避けます。

記録例：E3・V4・M6＝13。「声で開眼、場所を誤答、握って開く指示に従う」。
NTの例：E4・VNT（挿管）・M6。合計は記載しない。
GCS公式：構造化評価・刺激と反応の解説 ／ FAQ